

# 初年次生を対象としたレポートライティング教育と Blog の利用

## —2 つの授業の比較検討を通して—

杉谷祐美子（青山学院大学文学部）・鈴木宏昭（青山学院大学文学部）・  
小田光宏（青山学院大学文学部）・長田尚子（青山学院大学大学院文学研究科）・  
小林至道（青山学院大学大学院文学研究科）

### 研究の目的

本研究は、教育学科の基礎演習の授業を通して、Blog を利用した授業外学習の支援環境が初年次生を対象としたレポートライティング教育にどのような意義をもたらすか、また、Blog の活用方法がどのような課題を抱えているかを検討することを目的とする。

Blog はインターネット上の日記的な Web サイトである。自己の活動、作品、感想・意見などをエントリーとして投稿して記録できるとともに、他者に対して手軽にコメントを行えることによってネットワーク上のコミュニケーションを図ることが可能となる。また、これらのコメントにいたるまですべて記録されることによって、一種のポートフォリオとして自己の学習過程をいつでも振り返られるという利点をもつ。こうした Blog の機能は、漠然とした問題関心から問いを絞り込み、他者からのアドバイスなども参考にしつつ、時間をかけてレポートを練り上げていく作業にとって有効と考えられる。そこで、報告者が担当する授業において、提出課題やグループ・ディスカッションの記録を作成する際に、一方のクラスでは Blog を利用し、他方のクラスでは紙媒体を用いて比較検討を行った。

### 授業の概要

分析の対象としたのは、1 年次前期に履修する教育学科の必修科目「基礎演習」で、2007 年度に担当した 2 クラスである。ここでは、Blog を利用したクラスを「クラス 1」、利用しなかったクラスを「クラス 2」とする。履修者はクラス指定を受け、2 クラスとも 24 名であった（ただし、完成論文の提出者はクラス 1 が 21 名、クラス 2 が 22 名であった）。

本授業は、教育に関する各自の自由な問題関心に基づいて調査を進め、学生同士の議論や教員からのコメントを参考にしながら、論文を作成していく。作業の過程では、自分の経験や思い込みから教育問題を論ずるのではなく、教育事象を事実に基づいて考察し、自分のものとのとらえ方を相対化できるような態度を身につけさせることを心がけている。

計 13 回にわたる授業構成は、オリエンテーション、資料検索の実習、Blog の実習、その後、スタディ・スキルに関する 4 回の講義と 3 回のグループ・ディスカッションを交互に取り入れ、最後の 3 回は論文のアウトラインの発表となっている。学生への課題は、文献表、文献レビュー、序文、中間論文、完成論文（夏季休業中に提出）であり、これらに加えて、ディスカッションの記録としてワークシートを作成させた。クラス 1 では、序文、中間論文のアップ、ワークシートの作成にあたって Blog を用いた。学生および教員は個人用の Blog を備え、課題提出以外にも自由にコメントを寄せられるようにした。なお、同クラスでは、Blog へのコメント役として、1 名の授業外 TA を配置した。

## 分析結果

授業終了後の学生アンケートによると、論文の作成についての理解度を5件法で尋ねた設問では、クラス1において、「理解できた」(1名)、「ほぼ理解できた」(15名)、「何とも言えない」(5名)であったのに対し、クラス2においては「ほぼ理解できた」(12名)、「何とも言えない」(9名)であった。サンプル数が少ないため、安易に結論づけることは避けたいが、Blog を利用したクラスのほうがやや理解度が高いといえそうである。「何とも言えない」と回答した理由としては、論文の作成方法はわかっても自分の論文に活かされているか、自分の身についたか、自信がないという回答が多くを占めた。

次に、論文の作成に役立った程度について5件法で尋ねた結果が下記の表となる。ここでも、(1)、(8)を除くすべての項目でクラス1がわずかながら評価が上回っている。そのうえ、(2)、(4)といった講義科目の評価については有意な差がみられた。

表「論文の作成に役立った内容」平均値(標準偏差)

	クラス1		クラス2	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
(1)「図書館の利用」のガイダンス(第2回)	4.38	(0.86)	4.48	(0.75)
(2)「論文の読み・書きの注意」の講義(第4回、第8回)	4.48	(0.51)	4.10	(0.62) *
(3)「論文の書き方」の講義(第6回)	4.67	(0.58)	4.43	(0.60)
(4)「プレゼンテーションの技法」の講義(第10回)	4.57	(0.51)	4.10	(0.83) *
(5)グループの人との議論(第5回、第7回)	4.33	(0.66)	4.05	(0.86)
(6)他のグループの人との議論(第9回)	4.24	(0.89)	3.95	(0.97)
(7)ワークシートの作成(第5回、第7回、第9回)	3.71	(1.10)	3.62	(0.97)
(8)アウトラインの発表(第11回～第13回)	4.29	(0.72)	4.29	(0.90)
(9)序文や中間論文への教員からのコメント	4.86	(0.36)	4.81	(0.40)

\*  $p < .05$

上記の通り、クラス1では明確な差が表れているとまではいえないものの、全般的に評価が上回っているようだが、では、Blog はどのように使われていたのだろうか。

1週間ごとのBlogへのアクセス数を集計したところ、課題を課した時にアクセスが集中しており、また、課題提出時もそうでない時も、5回目の授業あたりまではその後比べてアクセス数が多いことも明らかになった。ここから、喚起されたBlogへの関心を早い時期に定着させ、さらに利用を促すような支援体制を工夫することが重要だと考えられる。

注目すべきは、アクセス数の少ない学生でも、自分のテーマとはかけはなれた他の学生のBlogを閲覧している点である。Blogをどのような点で活用できたかという設問では、21名中18名が「他者の記事を参照することで多様な考えを知る」を選んでいる。これに対して、今回「コメントを書くことで他のメンバーとの意見交換をする」を選んだ者はわずか2名にすぎなかった。学生たちは他者の記事を参照することに関心はもっても自分から発信していく行動にはなかなかうつせないようである。入学したばかりの新しい人間関係のなかで、Blog上、コミュニケーションを交わすことは難しいのかもしれない。

ただし、Blogの必要性を感じる学生は「エントリーを書くことで自分の考えを整理する」を選ぶ傾向にあった。他者の記事を閲覧するにとどまらず、自分の思考の整理や論文の案を練るのに活用できた学生はBlogの意義を認め、ワークシートの有用性も評価しているようである。実際にワークシート自体、やや長めに記述し、自分の研究に対する気づきなどを書き込み、なかには自主的に序文を修正する学生もみられた。こうした記述分析の詳細は発表当日に委ねたいが、他者の論文や見解を参照し、自分自身の主張を振り返るという点においては、Blogの機能がある程度活かされているといえよう。